

①事業の基礎情報

事業名	こども・若者成長応援事業		担当部・グループ名	こども未来部 文化スポーツグループ						
実施期間	平成 26 年度～平成 27 年度		担当 GL 氏名	鈴木 明美						
新規・継続の別	継続事業		電話番号(内線)	52-1111(内線 300)						
総合計画(基本計画)体系	個別目標	(3)人と学びの輪を広げ、まちのチカラを育みます		款 10款 教育費						
	こんなことに取り組みます	地域ぐるみで未来に羽ばたく人材を育て、まちづくりの活力を高めます。		項 5項 社会教育費						
	みんなで目指すまちづくり指標名	将来の夢を持っている子どもの割合		目 4目 青少年育成・活動支援費						
	現状値(H25)	81	実績値(H26)	78	実績値(H27)	77	実績値(H28)		目標値(H29)	85
		総合戦略		□該当する ■該当しない						

②事業の概要

目的 (何をどうするために)	★映画製作に関連する様々な活動をこども・若者成長応援のツールとして、こども・若者が自主的に関われる機会を多く用意し、自主性や責任感の向上、まちへの愛着や誇りの向上など、こども・若者の成長に繋げていく。また、第1弾の活動を通し成長した若者が今度は教え手側にまわり、こども・若者の輪をさらに広げるとともに、様々な関わりの中から、子どもたちのために活動する地域の大人を増やす。		
対象(誰・何を対象に)	こども・若者成長応援：中学1年生～高校3年生	対象の数量	3,580人
最終目標 (最終的に何がどうなれば達成か)	☆映画作りをとおして、子ども達に様々な経験や大人たちとの交流を図るとともに、子どもたちが自分に何ができるのか・何がしたいのかを発見し、将来の夢を見つけ“高浜のために何かしたい”という自発的な思いが育つことを目指す。 関わった子どもたちが、まちへの愛着や誇りを高め、協力してくれた大人とともに将来のまちづくりにつなげていく。		

③事業にかかる事業費概要

平成 27 年度 (当初予算額)		決算額	主な内容		
事業費総額 (千円)		3,575	3,352	・臨時職員賃金 286千円	
財源内訳	一般財源	3,571	3,352	・消耗品費 66千円	
	特定財源	国・県支出金	—	—	・市民映画制作費補助金 3,000千円
		その他	4	—	
補助事業・単独事業の別		単独事業	単独事業		



▲学校の協力で撮影した教室シーン



▲映画のラストは練習を重ねたダンスを披露



▲前作を経験した中高生が指導

④平成 27 年度の実施内容（目指す姿の実現に向けて、どんなことに取り組んできたのかを整理する）

	何を・どのように・どうした ※箇条書きで記載する	いつ(年月)	アウトプット
実施内容	◆中高生を中心に演技稽古、ダンスレッスン、撮影用小道具・衣装の作成を行った。	H27.4～ H28.3	小道具・衣装
	◆広報、ホームページ、フェイスブック、ポスター、ラジオ放送等により活動内容・撮影情報の発信を行った。	H27.4～ H28.3	広報、HP、FB、ポスター、ラジオ放送
	◆市内各所での撮影、レガッタ、8・2 e デーふれあいの翼等、地域イベントでの撮影を行った。	H27.5～11	—
	◆鬼みちまつり、市民駅伝、シティマラソン、大家族たかはま会議、安城七夕祭り等に参加し活動の周知を図った。	H27.9～ H28.1	—
	◆鬼コン Vol.5 を開催し、多くの方にエキストラとして映画撮影に参加していただいた。	H27.11	撮影参加者 約 560 名
	◆「タカハマ物語 2 心のツバサ」上映会を開催した。	H28.2	約 800 名観賞
参画・協働・ 情報共有の工夫	★地域のイベントを撮影に活用し、エキストラとして多くの方に参加いただいた。		
	★中高生スタッフを中心に大人が補助する形で撮影、小道具作り等を進めた。		
	★市内の様々な場所での撮影、様々な媒体での情報発信を行った。		
進捗状況	天候等により、多少の変更はあったが、当初に掲げた計画内で、順調に進めることができた。		
実施内容に 対する成果 (事業の自己評価)	☆ 学年・学校の違う子ども、年代の違う大人の間で世代を超えた繋がりが生まれた。		
	☆ 前作に関わった子どもたちが、中高生の教え手に回り、活動することができた。		
	☆ 子どもたちが映画製作を通し、それぞれの役割の中でやるべき事を意識し、自分で考え行動できるようになった。また、撮影後もダンス・演劇を続ける子どもたちがでてきた。		

⑤課題と今後の取組みの方向性（平成 27 年度を振り返り、課題を抽出し、今後の取組みの考え方を整理する）

課題	今後の取組みの方向性
(1) 趣旨や活動内容の周知 ・子ども・若者の成長に繋がりたいという映画作りの趣旨や、参加した子どもたちの成長をより多くの方に知ってもらえる機会を増やす。	・ホームページやフェイスブック等での情報発信を続けるとともに、完成した映画のキャラバン上映を市内外で行い、上映の前後で、子ども達から映画の見所や自分の経験を話す場を設ける。
(2) 参加機会の確保 ・より多くの人に参加できる、協力できる機会をどのように設けるか。	・多くの人に興味を持ち参加したくなる内容を子どもと大人を含めたメンバーで検討するとともに、子どもたちが参加しやすい時間・時期なども考慮していく。
(3) 今後の取組みと展開 ・タカハマ物語 2 製作で終わってしまうのではなく、その経験や繋がりを生かし、どのように子ども・若者の成長につながる活動、まちへの想いを高める活動に繋がっていくか。	・映画作りに関わったことで、映像の道へ進む子ども、演技やダンスを続ける子ども達がでてきた。今後も、協働事業として活動を継続し、高浜の魅力的な場所、自慢できる物などを絡めたショートドラマ等の映像制作を子どもたち中心に、繋がりのできた大人と新たな参加者を募り活動していく。

⑥課題解決に向けた平成 28 年度の具体的なアクション（案）

	何を・どのように・どうする ※箇条書きで記載する	いつまでに(年月)
計画(案)	◆完成した映画のキャラバン（出前）上映を行う。	随時
	◆上映情報も含め、ホームページやフェイスブックで情報発信を行う。	随時
	◆活動内容、参加機会の確保などについて、作戦会議を行う。	H28.5
	◆新たな参加者を募り、ショートドラマ作品の制作・発信を行う	H29.3
	◆子どもたちのやりたい事、想いを聞く機会を設け、今後の活動を検討する。	H29.3
参画・協働・ 情報共有の工夫	★子どもたちが上映の準備・運営をし、その場で自分達の経験や想いを話す機会を設ける。	
	★市民スタッフ全員で活動内容や参加機会の確保の検討、周知活動に取り組む。	
	★映像作品の発信について SNS 等を利用し、広く発信していく。	
特記事項		